

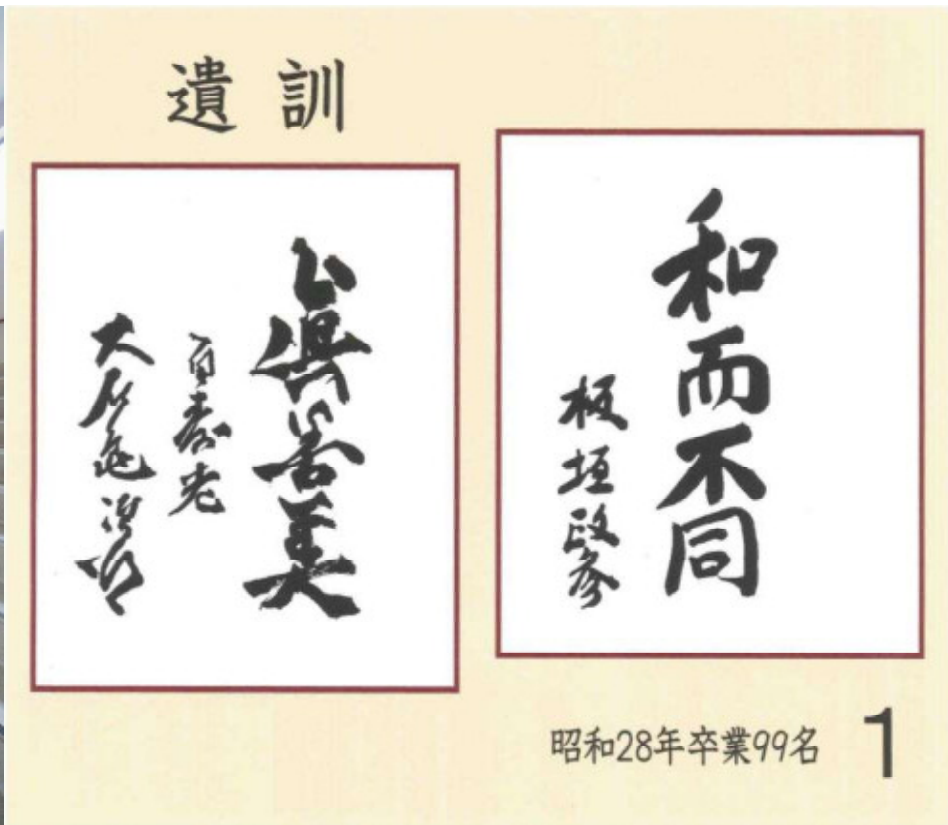
久留米大学附設高等学校同窓会

会報

同窓会ホームページ <http://www.fuetsu.gr.jp>
頭維



久留米大学
附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町 20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 11,898名



附設のシンボル・『思考廻廊』：1回生のパネル/板垣政参初代校長「和而不同」、大石亀次郎先生「真善美」

目次	
■挨拶	長谷川同窓会長・校歌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02
■挨拶	久留米大学 神代理事長・永田学長・・・・・・・・・・・・03
■挨拶	吉川校長・島添後援会長・・・・・・・・・・・・・・・・04
■附設発祥の地	『久留米大学附設高等学校揺籃之地』・・・・・・・・05
■支部だより	全国10支部の活動・・・・・・・・・・・・・・・・06
■新校舎竣工記念講演会	母校講演会・福岡講演会・東京講演会・・・・・・・・16
■思考廻廊	今後の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・23
■高良随想	田中正志・野田隆昭・丸林茂夫・友添郁夫・・・・・・・・24
■海外だより	宮本博幸・・・・・・・・・・・・・・・・28
■会務報告	理事評議員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・30
	IT情報・名簿委員会報告・・・・・・・・・・・・36
■卒業生への支援	就職セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・38
	新人歓迎会・・・・・・・・・・・・・・・・40
■在校生への支援	進路講座・・・・・・・・・・・・・・・・41
■社会への支援	『修羅救世』有志活動の中間報告・・・・・・・・42
	被災地からの報告・・・・・・・・・・・・・・・・44
■母校のいま	進学状況報告・・・・・・・・・・・・・・・・46
■恩師を囲んで	古賀直先生古希の会・・・・・・・・・・・・47
	20回生還暦同窓会記・・・・・・・・・・・・49
■寄付・広告	『附設ファミリー』のネットワーク・・・・・・・・52
■編集後記	新たな交流の場・編集後記・・・・・・・・・・・・76

★挨拶★

■同窓会長挨拶■

「日本一の同窓会」をめざして、Web名簿による活性化を

同窓会長 長谷川房生(13回生)



同窓会員の皆様は元より、母校の先生方、学校法人久留米大学の理事長、学長他の皆様、事務長をはじめとする事務職の皆様、さらに後援会役員の皆様方、健全なつながりの中に、常日頃、同窓会の発展にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

お陰様で1万2500名におよぶ同窓会は、会の目的である「1. 互助、2. 親睦、3. 母校の発展」のために、着実に前進しています。

各役員は、設置・担当する委員会を元に、積極的に同窓会の充実を図っています。その一つが、かねてより懸案であった、財政面の単年度赤字の問題です。財政改革委員会が打ち合わせを重ねた結果、解消の方向に向かっています。新校舎の建設に伴う、思考廻廊なども同委員会が、ほぼ予定通りに進めています。また、広報委員会による本誌などの広報誌は内容を充実させ、賛同を頂いております。しかしながら名簿のWeb化が

今一つ進んでいません。アドレスの入力が1,000名程度でしたので、別途に方策を考えWeb名簿の作成を行っています。この作成は、同窓会が会員相互間に役立つためには、極めて重要です。この名簿が充実し、完成すれば、全会員への一斉同報が可能になり、情報共有が進みます。それにより、同窓会本部や支部、各回生間で様々な相互交流が可能になります。附設高校は、今や日本の将来を担うエリート輩出校です。私たち同窓生がこれまでに蓄積してきた有形・無形の財産は、知的、物的、技術的にそれぞれを足し合わせてみると、極めて莫大なものがあると思います。それらをお互いの友情と英知を基に、活用しあい、互いに役立て合うと、お互いを取りまく人生の環境が、一気に豊かなものになり、加えて互いの人生の充実と世の中への貢献が進みます。知的・技術的資産は、物的資産と異なって、お互いに分かち合っても減りません。むしろ、増幅していきます。そのことを前提に、私たちの仕事や社会的活躍に、病気や心の健康に、子供の結婚に、求人求職・就職に、趣味の会の交流などにも、相互に役立ち合っていけば、附設高校卒業生のみならず家族や友人たちを含め、より豊かに、より望ましい人生を享受することができると思います。すなわち家族や従業者や友人を含め、「大附設ファミリーの構築」を図ることです。その有意義な繋がりが、ひいては校歌に謳う「修羅道の世を救い、平和の偉業」を成し遂げ、「不朽の真善美を築く」道を進むことにつながると思います。このように前進していくことが、「高良山下で、青春の学びの時を共に過ごした」私たちの使命ではないでしょうか。

かかる活動を通して、久留米大学附設高校同窓会を、開成高校や修猷館高校などの伝統校に負けない「日本一の同窓会」に、久留米大学附設高等学校が「世界一の高等学校」になることを願って、お互いに力を合わせてまいりましょう。

最後に、前回に引き続き、この冊子型の80ページにも及ぶ同窓会報を会社勤務を抱えながら、編集作成にご尽力頂きました広報委員会の皆様に、心から感謝申し上げます。



校歌

久留米大学

附設中学校
附設高等学校

校歌

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろう

若き血潮の高鳴るを

見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川

高き彼岸の光明を

見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として

築く不朽の真善美

見ずや 我等の大使命

★挨拶★

■理事長御挨拶■

『久留米大学附設高等学校揺籃之地』

久留米大学 理事長 神代正道



長谷川同窓会長をはじめ附設同窓会の皆様には、母校へ物心両面にわたり暖かいご支援を頂き深く感謝申し上げます。特に、2013年9月に完成した高等学校創設60周年記念事業としての附設高等学校・中学校校舎の建替えに際しましては、多大なご支援を頂きましたことに、学校法人を代表して厚く御礼申し上げます。

1950年、板垣政参初代校長のもと、「**国家・社会に貢献しようとする、為他の気概をもった誠実・努力の人物の育成**」を建学の理念として創設されて以来、あらゆる分野において傑出した人物を輩出し、全国有数の進学校として確固たる地位が築かれました。私は1961年から1年余り御井キャンパス（商学部）敷地内にあった医学部進学課程で過ごしましたが、当時、同じ敷地内に旧陸軍兵舎を流用した附設高等学校校舎があったのを覚えています。

1968年に高等学校は現在地に移転しましたが、創立40周年を機に御井キャンパステニスコート南側の高等学校跡地に記念碑が建てられ、第5代校長世良忠彦先生の筆になる「久留米大学附設高等学校揺籃之地」の文字が刻まれています。高等学校創立以来64年、まさに今昔の感があります。

2005年からの高等学校、ならびに2013年からの中学校の男女共学化により、附設中学・高等学校のさらなる発展が期待されます。最後になりましたが、附設同窓会の皆様には今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます

■学長御挨拶■

平成26年度の附設高校・中学校 入学式告辞から

久留米大学 学長 永田見生



新入生、保護者の皆さんに久留米大学の教学を代表してご入学を心より歓迎致します。附設高校創立の昭和25年4月、板垣政参初代校長は、敗戦による国家窮乏の難局下に救国的赤心をもって、「**国家・社会に貢献しうる誠実にして気概のある人物の育成**」を校是に定められました。当初は、生徒は兵舎跡を教室として使用し、運動場も久留米大学と共同使用するなど、極めて不十分な設備の中での出発でした。現在は全国的に附設の略称で通じる程の有名校として認知されています。この発展は、歴代校長、教師、そして全校生徒の旺盛な向上心により形成された「生徒らが励むところに学校はある」、という「附設のこころ」を基に、教師、生徒が共に新校創造の気概と情熱に燃え、一体となって理想に向かって邁進したからと、原巳冬第四代校長が25周年記念誌に掲載されています。その通りですが、附設の発展は二つの幸運に恵まれた結果と考えます。一つは、歴代、優秀な

校長、教師に恵まれ、特に原巳冬第四代校長という、優れた指導者を迎えたこと。今一つは、ブリジストンの創業者で、久留米大学理事長であった石橋正二郎氏の正源寺山の土地寄贈により、昭和43年に新校舎が建築され、勉学、運動の環境が整ったことです。昭和44年には、原巳冬校長のもと、「日本一の中学校」を目指して中学校が開校され、高校入試に費やすエネルギーを効果的に利用し、中学時代から大学入試を必要以上に意識させない余裕を持った中学生活が送れるような中高一貫教育のカリキュラムが組み込まれました。その第一回の生の第23回生が卒業した昭和50年から、東京大学などの有名校への進学率が飛躍的に向上し、全国から注目されます。この昭和40年～54年の14年間は、附設の発展期と呼ばれ、以来、先生方の情熱的な努力により、生徒のデータに基づき、教科、生活、進路指導が個別に行われ、勉学一辺倒にならない各学期の学校行事の組み込みにより、生徒のストレスが緩和され、勉強に集中しやすい環境が整っていますので、保護者の皆様はご安心下さい。私の愚息は本校に第51回生としてお世話になり、小学校時代は軟弱であった我が子が、昔流に言えば立派に元服する様子をみる事が出来、大変感謝しています。

新入生の皆さんに将来への期待を申し上げます。皆さんは、グローバル化や情報化の進展、少子高齢化などで国家自体が大きな構造的変化に直面し、予測困難な時代において、我が国社会の活路を見出す原動力となり、国の行く末を担うべき世代であることを自覚して下さい。皆さんの世代がいかに関心、学識が優秀であるかにより、我が国の運命が決まります。附設の校歌や校是にあるように、修羅道の世を救うべく「**国家・社会に貢献しうる誠実にして気概のある人物**」への成長が、あなた方の大使命です。皆さんの入学を歓迎し、「**学を志す者、規模を宏大にせねばならぬ**」との、先哲、西郷南洲の言葉を伝え、学長告辞と致します。

★挨拶★

■校長御挨拶■

この先の日本や世界の姿かたちを含む時代を、よりよいものに！

附設高等学校校長 吉川 敦



新年度を迎え、同窓生の皆さまには、それぞれにお忙しくご活躍のことと存じます。久留米大学附設中学校・高等学校においては、すでに一箇月余り経ち、年度初めの大きな行事、入学式、始業式、オリエンテーション、文化祭(第44回「男く祭」)を一通りこなして一段落したところです。考えるまでもなく、間もなく夏休みが参ります。つくづく時間というものには休んではくれないものだな、と思います。

さて、申し遅れましたが、老生、この四月より、附設校長として三期目に入りました。規定では、任期は三年間、平成二八年度末までになります。老境の身の実感としては、早めの退任も想定して、まさに、一日一日を今まで以上に大事にして学校運営に当たらなければならないと考えております。皆さまからのご支援を切にお願い申し上げます。

昨今の学校についてお話し致しましょう。中学は共学化二年目、昨年度より若干女子生徒の比率が若干高まりました。併せて、40人学級化の進行により、現在、従前の50人学級を基本としているのは、中学三年生の3クラス、高校三年生の4クラスのみになりました。高校募集枠は再来年度から40名になりますが、来年度までは50名であり、高一だけは、5学級ながら、A組だけが50名基本という変則的な姿になります。40人学級化は、校舎新改築と絡んだ福岡県との約束事との認識で進めて参りましたが、いろいろと大変で、安定した姿が確立するまでには、なお、数年掛かるものと思っております。目下の中学新入生に関しては、特に、女子生徒において医系志望者の比率は高まっているように思われます。全体の進路予測については、時代の変化もありますので、確かなことは言うことはできないと思います。

共学化の今後については、女子生徒が概ね全校の三分の一くらいで安定するかと予想され、その結果、中長期的には、扶桑学寮の規模を現行の三分の二以下に縮小して行かなければならないだろうとされています。また、女性教員の比率を高めていく必要もあり、十年後の附設は、恐らく、皆さまがご存じの姿とは、相当に違っているだろうと思われます。今後と言わず、現在の生徒たちについても、この先の日本や世界の姿かたちを含む時代を、よりよいものに、積極的に一変化に対して受け身をとるのではなく、一つくり上げて行く役回り果たしてくれると期待しております。そして、それこそが附設が創立以来育み、今後も継承していくべきもの、校歌の三番にあり、また、建学の趣旨に謳う附設の芯をなす精神に應える道に違いありません。

さて、今春、附設を卒業した皆さんもようやく新しい生活のリズムに慣れてきたころだと思います。まだまだ伸び盛り、附設時代とは比較できない勉強ができるはずです。悔いの残らぬよう、ますます、励まれ、ご自身の新しい世界を早く創り上げられますように。

■後援会長御挨拶■

生徒の食生活の充実、学校生活の安全性の向上を！

後援会長 島添隆雄(26回生)



本年度より後援会会長を務めさせていただきます島添・雄と申します。附設中学校3回生、高校25回生でもあります。前会長の藤崎敬介氏とは、中・高の同級生でもあります。彼は極めて真面目で優秀でしたが、私は剣道三昧で過ごしました。現在九州大学大学院・薬学研究院・臨床薬学分野に在籍しております。

さて、昨年11月2日に同窓会との共催で開催されました附設高校新校舎竣工記念講演会では、19回生の川嶋文信氏にご講演頂きました。生徒からも活発な質問があり、盛会のうちに終えることができました。深謝致します。

今年度の後援会の懸案事項として、次の点が挙げられます。ひとつは、生徒の食生活の充実です。生徒の体や脳の健康にとって、食生活は極めて大切です。しかし、保護者や生徒の意見を聞くと、残念ながら附設の食堂は十分とは言えません。同窓会の力もお借りし、学校側および大学側と交渉を重ね、食の改善に取り組みたいと思っております。また、女子生徒が増加してきたこともあり、学校生活の安全性の向上、緊急連絡網の充実も図っていきたくと考えております。

いずれにしても、生徒が不安なく学校生活を送れるよう、後援会として全力で支援してまいりますので、同窓会のご支援・ご協力を是非共お願いする次第です。何卒宜しくお願い申し上げます。

★附設発祥の地★

神代理事長の御挨拶の中で触れられている、『久留米大學附設高等學校揺籃之地』の記念碑を、みなさまご存知でしょうか。創立40周年の記念事業として、第五代校長世良忠彦先生の筆により、先生独特の力強い筆致で刻まれています。母校を訪ねられた際には、是非足を延ばしてお立ち寄りください。

■『久留米大學附設高等學校揺籃之地』の記念碑よせて
創立40周年記念事業 第五代校長世良忠彦先生の筆による

4回生 丸林茂夫



附設同窓会報No.8 平成3年1月31日 から抜粋

現在の久留米大学御井キャンパス西寄り、テニスコート側の道路脇にフェンスでややさざぎられている部分もあるが、「久留米大學附設高等學校揺籃之地」と刻まれた人の身の丈ほどの石碑が立っている。これは、附設創設時の校舎跡の位置を示したものである。附設現役の生徒達からみれば、単なる大学のキャンパスの何かであり、立ち止まって見るほどのものではないかもしれない。しかし、この地で青春の三年間を過ごした我々にとってみると、当時、ここに存在した風景は、はるか高良山を望み、農業試験場の緑に包まれ、新鮮な風とにおいが、元気の源となっていた。私も、四回生として、昭和28年(1953年)に入学し、この学校の門をくぐった152名の中の一人である。

当時の校舎は、戦前に建てられた旧工兵隊の木造平屋の兵舎に、学校の教室らしく手を加えて、正面に黒板を張りつけ、50人分の机と椅子を並べて体裁を整えただけという感じであった。廊下を挟んで9教室、教室や廊下も、もちろん木造で、ブカブカの個所もあった。照明も当時のことであり、想像していただきたい。しかし、建物は粗末であったが、威厳のある白いヒゲの板垣初代校長は元九大医学部長、英語の榎崎副校長は中学明善校の元校長、見事なカイゼルヒゲの漢文の大石亀次郎(亀チャン)先生は、旧制柳川高女の元校長などをはじめとして、重鎮教師で固められていた。先生方の指導は厳しく、宿題ばかりの重圧にも閉口したが、楽しかった。同期の友達との仲も良かった。

昨年、新装なった野中町の現校舎を、同期生に声をかけ十数人近くに集ってもらい、「思考廻廊」を見たあと、談笑しながら坂道を歩き、思い出のこの地に立った。それぞれに「揺籃之地」の石碑に手を触れ、六十年前の「できごと」を語りあった。私の年齢層になると、すでに逝った友を思いうかべ、「これからの人生を元気で過ごしたいネ。」と過ごした一日をいま思い出している。

2014年5月

★支部だより①★

北は北海道支部から南は大分支部まで、全国10支部が設立され、各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。この『支部だより』コーナーでは、各支部の活発な活動報告をお届けします。

■東京支部■ 同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、多様な交流が可能に！

東京支部長 長縄雅夫（14回生）



多くの支部員を有する東京支部では、今まで様々な取組を行い同窓会活動の活性化を図って来ています。同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、多様な活動が行えるようになりました。

東京支部では、懐かしい友との出会いの場であると共に、同窓会が持っている優れた資産を、同窓生皆さんが活用出来るような場をこれからも提供していきたいと考えています。

1. 高校卒業後に上京し、新たに支部会員となる学生を対象に『歓迎会』を始めて今年で3年目となります。毎回50名以上の学生会員がこの歓迎会で再開し、多いに語り合い楽しんで、迎えた先輩会員とともに附設が持つ自由闊達なエネルギーを東京の街に放出してくれます。同窓会に触れる最初の活動として、今後とも充実を図っていきます。
2. 秋の『東京支部総会』に向けて50歳の回生だけでなく、20歳の回生も一緒に加わって総会の準備・企画を行っています。世代を超えた交流と協働を経験することで、最近では若手同窓生も様々な同窓会活動に積極的に参加してくれるようになってきました。
3. 東京支部が長年継続してきた『就職セミナー』も今年で19年目を迎えます。今では、同窓会全体の重要な活動の一つになっています。過去にこのセミナーの恩恵を得て社会人になった連中が事務局メンバーに集まってきて様々な工夫を凝らして、セミナーの充実を図ってくれています。就活を迎える学生会員にとっても、本当の意味で附設の先輩方の素晴らしさと愛情の深さを実感するのは、この就職セミナーだと思っています。他地域の学生も含めて少しでも多くの学生がセミナーに参加し、附設のネットワークを活用して、満足いく就活をしてもらいたいと願います。
4. 東京支部でも『回生代表世話人会』の充実を図ってきたことにより、同じ回生内の横のつながりに加え、1回生から現在の62回生までの縦のつながりを強めています。全回生に同窓会活動を理解してもらい協力を得る場となると共に、支部活動に対する率直な意見や活動提案の場としても機能しています。先般の世話人会では、学生向けの就職セミナーに加えて、これからはおじさんのための『転職セミナー』もぜひやりたいとの提案も出て来ています。
5. 『SNS』の機能を柔軟に活用することで、支部からのタイムリーな連絡が出来るだけでなく、回生を超えた支部員同士の自由なコミュニケーションの場が生まれ、今まで以上にオープンな同窓会のあり方を提供出来るようになってきました。この中では、支部や地域の枠を超えて、人材の募集や紹介、イベントの案内、業務相談、医療相談などなど同窓生同士だから出来るコミュニケーションが始まっています。そのうち、婚活イベントが立ち上がるかもしれません。

会長が目指している『附設ファミリー』が名実ともに豊かになり、附設に学んだ事を幸せに思えるようになることを期待しています。

2014年5月

★支部だより②★

■北海道支部■ 第25回 久留米大学附設高校 北海道支部同窓会報告

北海道支部長 壇浦龍二郎(20回生)・事務局 西見寿博(20回生)

5月の連休まで雪が降り、遅い春到来でしたが、皆様にはお変わりございませんか。今年も附設高校北海道支部同窓会を6月15日、札幌すすきので行いました。今回は25回という節目であり、久留米から同窓会長、副会長、そして校長先生をお招きして開催しました。新しい同窓生を迎えて、総勢17名の方々が集まり、盛会でした。会の様子をご報告します。(時：2013年6月15日、場所：札幌南2西4、七番蔵。尚、例年通り敬称は君にしております)



最前列) 簗原悠太郎君。(1列目右から) 一瀬副会長、長谷川会長、末永義圓君、吉川校長先生、松永碩幹君、(2列目右から) 事務局西見、高森信乃介君、南祐君、稲富拓也君、宮本郁未君、(3列目右から) 壇浦龍二郎君、桜木修君、白水貴大君、野口俊之君、鳴尾聡一郎君、松岡高博君

○船津仁之君(20回生)：学会が重なり出席できません。○筒井裕之君(24回生)：出張と重なり出席できません。北海道で9年目を迎え、元気にやっております。○中島泰志君(35回生)：手稲溪仁会病院で働いています。昨年はフルマラソンを完走しましたが、足を痛めてしまい引退を余儀なくされてしまいました。当日は小児救急医学会出席のため参加できません。○草場鉄周君(41回生)：楽しみにしていたのですが、公務で上京する必要があり残念ながら欠席です。○坂口滋行君(51回生)：司法修習のため大阪に転居いたしました。○力武正吾君(58回生)：現在農学部4年生になり、伊藤忠商事の内々定が決まりました。3年間部活で忙しく参加できず大変申し訳ございません。

その他に富松昌生君(3回生)、古賀俊勝君(16回生)、鹿野能準君(38回生)からもご連絡頂きました。

2014年5月

★支部だより③★

■関西支部■ 関西支部初めての企画として、『新人歓迎会』を開催！

関西支部長 友添郁夫 (5回生)・幹事 甲斐田郁夫 (21回生)



関西支部「新人歓迎会」2014年6月20日 大阪・住友倶楽部にて

「関東は同窓会を活発にやっているが関西はあまり・・・という話を大学入学前から耳にしており、少し寂しく感じておりました。ですので、先輩方が今年から盛り上げていこうとしておられると轟先生から伺いまして、大変嬉しく感じておりました。」今回、関西支部として初めての企画として、新入生歓迎会を催すにあたり、61回生の一人から寄せられた感想です。こんな思いで、九州から遠く関西にやって来ていたのかと、又もっと早く開催してあげていたらと、忸怩たる思いでした。6月20日(金)、初回の関西・新入生歓迎会は、大阪中島・住友倶楽部に、61回生6名と62回生5名、社会人・同OB9名の20名にお集まりいただき、楽しいひと時を送ることができました。当初、参加人員が少なくなりそうで、中止・順延を考えた折に、学生からいただいた、「新入生一同、歓迎会を開いてくださることを大変喜んでおり、できるだけ参加したいという思いがあるようです。ご検討のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。」との言葉には勇気づけられました。歓迎会が今後とも、継続して引き継がれてことを念願しております。

さて、関西支部は、創設以来、弁護士の友添郁夫先輩(5回生)が、長らく運営に携わって来られました。年末恒例の関西支部同窓会には、40～50名の同窓生、他支部からのゲストを、集めていただいております。昨年秋、先生から「わしも、もう75歳じゃから」と、20回生前後の4～5人に、次回からの会運営が委託されました。同窓生への連絡を、往復はがきから、F a xに変更したこともあってか、昨年は、例年より少なめの27名にお集まりいただきました。少人数ではありましたが、逆に、内輪の和気あいあいとした、良い会合でありました。思いますに、関西は我らのルーツ地元九州でもなく、人・物が集積する東京でもありません。関西の大学で育った学生も、大半は、関東で就職していきます。したがって関西支部同窓生の構成は、転勤で関西に移り、暫くは関西に居を構えるも、何れは他に移って行く方か、あるいは縁あって、たまたま関西に居を構えた方が、大半を占めます。そういう意味で関西支部は、東京・大阪という表現のわりには、同窓生の地域定着率が低く、足腰が強くないというハンディを、抱えております。今後、速やかに、メールアドレス・携帯電話を記載の主体とする名簿作成、転勤情報の取得、学生の把握、等の技術的な問題に取り組み、足腰を強くしていく努力が求められます。友添先生の、ご好意に依存してきた同窓会から、将来、構成員が入れ替わろうとも、変わらずに機能する組織を作っていくかねばならない時期と思います。母校を懐かしみ、後輩の手助けをしたいというのは、自然な感情かと思えます。

最後に6月の関西・新入生歓迎会に寄せられた、大先輩と、そのはるか後年の後輩のことばをご紹介します。大先輩・・・「若者との交流は忍び寄る老化防止に最良薬。身体の不具合、脳アルツハイマーに抗って、向上心・好奇心を満たすべく大いに遊びたいです。」、はるか後年の後輩・・・「多くの先輩方との出会いを心から楽しむことができました。お忙しいなか、企画して下さい誠にありがとうございました。」

幹事・甲斐田郁夫 (21回生)

★支部だより④★

■中国四国支部 ■ 「附設高校同窓会共同体」の一員として、相互扶助のために開かれた支部活動を！

中国四国支部 支部長 森山弘行(3回生)・事務局長 田代 聡(28回生)

中国四国支部の16回生近藤治幸です。森山支部長から白羽の矢が立ち、拙文ながら、寄稿させていただくこととなりました。回想雑感、支部長ほか、事務局役員の皆様にもご一読いただいております。宜しくお願い申し上げます。

有薫の美人女将を真ん中に記念撮影
(秀島氏、女将、近藤の順です)

附設高校よせがきノート

大石亀次郎先生の自筆

■回想雑感

16回生 近藤治幸(岡山市)

「支店長、附設高校同窓会の行方不明者リストにお名前が出てるようですが、、、」と部下の若手職員が報告してくれた。平成16年夏頃の出来事である。当時は兵庫県明石市の支店に勤務していたのだが、インターネットなどあまり関心がなくホームページなど見る機会はなかった。パソコン自体、大学を卒業した息子のお下がりでも旧式のテレビのような代物でパソコンラックに鎮座ましましていただけであった。「ありがとう。よくみつけてくれたね。きょう帰宅して早速調べてみるよ」と件の同窓会HPにアクセスすると、確かに「行方不明者リスト」に名前が載っている。終身会員にすでになっているのになあ、と思いながら、翌日、同窓会事務局に電話を入れた。担当の女性は心やすく応じてくれ、「確かに終身会員になっておられますが、郵便物が宛先住所から返戻されると行方不明ということでリストに記載される」そうであった。「新しい住所を登録させていただき、行方不明者リストから削除しておきますので、、、」と晴れて「行方不明」ではなくなった次第である。(注：正しくは「宛先不明者」だそうです。念のため。)

思えば、福岡で開催されている附設高校同窓会への出席は、実は、平成17年頃の明石勤務時代から始まって、長崎時代、そして現在に至っているのだが、遅きに失するなあと反省このうえないのである。2、3年毎の全国転勤生活の身の上では、なかなか九州へ赴任する機会を得られず、また、各地での同窓会支部の情報もよくつかんではいなかったという事情もあった。

私事ながら、昭和47年(1972年)4月に国民金融公庫に奉職し、平成21年(2009年)6月に退職するまで、37年間のうち、転勤13回(京都、大阪南、尼崎、東京、仙台、東京、倉敷、そして退職に至るまでの最後の17年間は連続して単身赴任、守口、小諸、津、和歌山、豊岡、明石、長崎、合計14ヶ所)という、異例(?)ともいえる経歴なのである。(注：今は、日本政策金融公庫という名称になってしまいましたが、本来の公庫としての役目をずっと維持して欲しいものと願っております。)

今にして聞けば、昭和62年(1989年)7月、東京・新橋の「有薫」という居酒屋に、我が附設高校のノートが第一号として開設されて、早や27年余り、同窓生諸兄の交流の場となっているそうである。当時、私は、東京にいたのだ、、、平成元年(1989年)1月倉敷に転勤したとはいえ、それを知らなかったのは慙愧の極みである。ちなみに私は、平成25年10月17日、やっと念願の「有薫」に顔を出すことが出来た。美人女将と記念写真、大石亀次郎先生や諸兄の記帳を拝読、そして21回生の秀島昌慎氏との一期一会、各々が望外の喜びとなった。(どうぞインターネットで「有薫酒蔵・高校よせがきノートの店」HPにアクセスしてみてください。)

さて、平成21年7月から(公財)教育資金融資保証基金広島業務センターに奉職し現在に至っているが、同窓会本部事務局に電話をしてはじめて広島にある中国・四国支部の存在を知り、支部同窓会(平成23年11月)に急遽参加出来たのを契機に、同窓会の裏方として支部長はじめ先輩方のお手伝いをさせていただいている。そして、今年は、平成26年11月予定の同窓会開催に向けて準備をすすめている。若手の後輩諸君が尽力してくれるのが、実に有り難い。

★支部だより⑤★

今や情報化社会であり、インターネットやメールを利用して、同窓会情報等を入手出来るとはいえ、アナログな私としては、紙に印刷された資料を基に、「活字」を追いながら、ゆっくりと読み込んでいく時間を大切にしたいものと思うのである。インターネット等の長所は長所として大いに活用していく必要は確かにあろうが、書面と生の声による地道な情報伝達は、人と人との絆を固めていくうえでは、基本的に優位性のあることと思うのだが如何であろう。

最後に、附設高校同窓生諸兄の各界におけるご活躍・ご功績は多大なるものがあると聞き及びます。大石亀次郎先生の「人生観」や校歌にもある如く、『先憂後楽』『一貫仁義』の精神をもとに、諸兄が更に各界へ進出され、我が国の礎となつてますますご活躍されんことを切に祈念してやみません。

(最後まで読んでいただき有難うございました。)

■山口支部■ 平成24年7月発会以来、3周年になります！

山口支部長 小柳信洋(14回生)・幹事 小野康行(16回生)



第2回山口支部総会 平成25年7月20日 東京第一ホテル下関

山口支部は平成24年7月に新しく発足しました。14回生の小柳信洋支部長を中心に活動をしています。ご存知のように山口県は東西に長く、山陰側は交通の便が極めて悪い地域です。同窓生の半数以上は、西の端の下関市在住ですが、その下関も、平成の大合併で、山間部を取り込み、端から端まで移動するのに、車で1時間半位かかります。

現在まで総会を2回、懇親会を4回開催しましたが、初回のみ中心部の山口市小郡で開催、あとは下関で開催しています。交通の便からも、中々定期で開催しづらなのが現状です。

昨年9月に支部の最高顧問でも有り、支部の創設に多大なご苦勞をされ、山口支部会員の心の拠り所でもあった、1回生の麻上良文先生がお亡くなりになり、なんとなく、気が抜けた状態が続いております。

3月には「麻上先生を偲ぶ会」を開催し、麻上先生のご冥福をお祈りしましたが、その後開催できていません。

そろそろ、支部結成3周年を迎えます。気を取り直して、第3回の支部総会の開催に向けて、行動を開始いたします。その際には、他支部の方へも、ホームページ等を通じて、ご案内をいたしますので、参加が可能な方はぜひご出席いただきますように、よろしく願いいたします。

(文責 小野康行(16回生))

■回生代表世話人会■ 同窓会の縦糸と横糸を紡ぐ

同窓会では、同窓会活動のより一層の充実をはかるため、年2回、福岡と東京で、それぞれ福岡回生代表世話人会と東京回生代表世話人会を開催しています。各地区では、それぞれ2名ずつの世話人を選出していただき、2人が協力し、かつ福岡、東京が連携して、その回生への連絡、取りまとめの大切な役割を担っていただいています。

・福岡では、7月に定期総会、支部総会が開催されるため、その準備に向けて、4月頃と、年末の2回開催。

・東京では、11月の支部総会、11月の就職セミナーに向けて、4月頃と、9月頃の2回開催。

4月ごろは双方、同時に開催することにより、同窓会としての共通の課題に、積極的に取り組んでいます。

★支部だより⑥★

■佐賀支部■ 年1回、佐賀支部総会と芙蓉医会を開催しています！

佐賀支部長 宮本祐一(13回生)



第25回芙蓉医会 平成26年2月7日

■平成25年度佐賀支部総会

平成25年8月24日 佐賀市 割烹おおしま

1：講演会：「アフガニスタンの今—9.11から12年経って」

元外務省在アフガニスタン副大使 筑紫 21世紀研究会住民の増えるまちづくりの会

宮原信孝先生：25回生

アフガニスタンの歴史と風土について詳細に語られ、赴任してなし得た事業などについて熱く語られた。また、久留米市長選への出馬の決意表明についてもうかがうことができた。

2：学校長祝辞：吉川 敦 校長 進学状況、新築のお礼などの報告。

3：長谷川房生同窓会長挨拶 4：祝宴

5：支部長挨拶：理事会評議員会報告、25年度決算、26年度予算報告、規約改正、終身会費などについて

■佐賀支部世話人会：平成25年7月19日

議題：平成25年度の総会の日程会場、講師の決定、会計報告

雑感：上記の世話人会にて年に1回の総会を準備開催し、主として同窓生に講演をお願いし、懇親会、同窓会活動報告などを行っている。今期までで支部長、評議員を交替する予定で準備中である。

私が、支部長として佐賀支部総会の挨拶として、初めて同窓会理事評議員会に出席した時の感想を述べているので、当時の記録を雑文として記載しておきたい。

「昨年江頭先生(故7回生江頭泰幸前支部長)から引き継ぎまして1年経ちました。そして評議員会に初めて出ました。びっくりしました。平和にしゃんしゃんと終わるというつもりで古賀会長の初めての会ということで参加したわけです。校長や教頭が交替しておられますし、新校舎建築の話がありますので、寄付金の依頼をどうしたものかと思って聴いておりました。ところが1回生の先輩方が厳しく追及されるわけです。叱咤激励といいますが、古賀会長の提案が決まらないわけです。また東京支部との確執があるのかどうか知りませんが、そのような内容もありまして、参加している者にとっては面白いですけど、会長も大変だと思いました。いずれにしても、校長をはじめとして同窓会も頑張っておりますので、寄付金については皆さんよろしくご協力ください。」

以上のようなことをその年の支部会挨拶として寄付金のお願いをしたが、真摯な議論を展開される理事評議員の方々に改めて敬意を表するものである。(文責 宮本祐一)

■第25回芙蓉医会(佐賀県在住医師同窓生の集まり) 年1回開催 会長代行：宮本祐一(13回生)

平成26年2月7日 佐賀市割烹おおしま(写真は芙蓉医会)

講演：慢性腎臓病について 宮本祐一(13回生) 出席者30名：佐賀大学生：1名

★支部だより⑦★

■長崎支部■ 毎年11月の第1週の土曜日に長崎支部総会を開催しています！

長崎支部長 今村由紀夫(15回生) 長崎支部幹事 / 同窓会評議員 福田 実



長崎支部総会 平成25年11月2日

久留米大学附設高等学校長崎県北同窓会
「村上誠様 山川勇造様の古希祝賀会」



平成26年2月19日 於 ホテルリソル佐世保

■久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部総会が平成25年11月2日(土)に長崎市ホテルニュー長崎の中国料理桃林で開催されました。23名が参加しました。初めに「臨床法医学の紹介-こどもへの虐待を中心に-」池松和哉(38回生)、「平戸藩の捕鯨史」山縣雅義(32回生)、「今、注目のリートとは」松雪恵津男(22回生)の講演会を行い好評でした。

続いて支部長15回生今村由紀夫が議長となり総会、その後懇親会を行い長崎支部活性化について話し合いました。学生の出席を増やすため平成26年度の学生参加費を無料にすることと副支部長 碓 秀樹(24回生)を決定しました。次回は同会場で平成26年11月1日(土)に開催予定です。

■幹事会が平成26年1月18日(土)にホテルニュー長崎の錦茶房で開催されました。

支部長と幹事の計5名が参加しました。富安志郎(29回生)が異動のため幹事を辞すことになりました。新幹事は 安武 亨(24回生)、福田 実(32回生)、山縣雅義(32回生)、本村克明(33回生)、福島徹也(39回生 ゴルフ幹事)、北川瑞希(59回生 学生幹事)です。総会/懇親会の参加費は社会人15,000円、学生無料に決定しました。

■長崎支部ゴルフコンペが平成26年2月1日(土)に長崎パークカントリークラブで開催されました。好天に恵まれ参加者8名が楽しみました。次回は平成26年11月2日(日)にパサージュ琴海 アイランドゴルフクラブで開催予定、午前9時4分開始で参加者募集中です。

■県北地区同窓会として「古稀祝賀会」が平成26年2月19日ホテルリソル佐世保で開催されました。23名が参加し、村上 誠(12回生)と山川勇造(12回生)をお祝いしました。

★支部だより⑧★

■大分支部■ 近く、大分支部総会を開催します！

大分支部長 藤原公司郎 (19回生)

大分支部長の19回生藤原です。一昨年7月に草野圭司次前支部長の後任として支部長になりましたが、支部としての活動は、2001年10月、植木先輩宅で総会を開催して以来特に行っていない状態です。次回は日田市でなるべく早い時期に開催したいと思っています。その節はご支援よろしくお願ひいたします。

■熊本支部■ 年2回の久熊会(きゅうゆうかい)から発展し、熊本支部総会を開催しています！

熊本支部長 石川浩一郎 (10回生)



第4回熊本支部総会 平成25年6月

平成22年5月20日に産声を上げ丸4年が経過しました。平成22年5月設立総会には社会人31名、大学生15名(10回生から58回生まで46名)の参加となり、久留米より駆けつけてくれた猪飼秀隆(29回生)氏も、「これだけ幅広い年代の集合する支部は無い」と評価してくれました。平成23年6月第2回総会には社会人29名、大学生15名合計44名の参加でした。同窓会本部より長谷川房生会長、一瀬 徹夫副会長にお越しいただきました。甲木孝人氏(7回生)がハーモニカを持参され、生演奏で母校校歌を全員で斉唱しました。平成24年6月第3回総会には福岡支部長 田中利美氏にお越しいただきました。社会人14名、大学生18名合計32名の参加でした。

平成25年6月第4回総会は社会人19名(10回生から43回生)、大学生16名(含:新入生4名55回生、58回生、60回生、61回生)合計35名の参加でした。母校同窓会ホームページから熊本支部総会の開催を知り参加してくれた方もあり大変感激しました。総会では、同窓会本部での理事会・評議員会の報告があり、思考回廊の件、Web名簿の件、終身会費納入の勧め件などについて説明がありました。29回生のひとは福岡から来てくれましたし、熊本県内でも人古や八代からもご参加いただきました。九州新幹線が開通して福岡、久留米、熊本の往来が活発化していることを実感しました。最後は恒例によりで母校校歌斉唱し、万歳三唱して閉会しました。

思い起こせば昭和57年、熊本大学に進学し縁もゆかりも無い土地での一人暮らしを始めたところでしたが、附設出身者ということで現役浪人合わせて十数名の新入生とともに歓迎会をしていただきました。会は久熊会(きゅうゆうかい)と命名され、新入生歓迎会と卒業生祝賀会の年2回の懇親会が行われていました。あるときはサロン・ド附設のように講演の後に懇親会を企画したこともありました。平成21年に私と同級生の猪飼秀隆氏が久熊会に参加してくれた際に提案してくれて、当時の同窓会会長の占賀輝人氏と当会会長の石川浩一郎氏が同級生(10回生)で卒後も懇意にされていたこともあり一気に熊本支部設立の機運が高まり実現できました。

例年3月の卒業生祝賀会は、平成23年社会人10名大学生7名。平成24年社会人10名大学生6名。平成25年社会人11名、大学生10名。平成26年社会人11名大学生15名。といった参加者で卒業生に餞の言葉を送るとともに次回総会の計画を相談しております。

★支部だより⑨★

設立5年目を迎えるにあたり平成26年3月31日付けで石川浩一郎氏(10回生)が支部長を辞任され、後任として寺島隆則氏(14回生)が、新幹事として、村上尚彌氏(33回生)、吉良朋広氏(33回生)が、次期熊本支部総会にて承認される予定です。益々熊本支部が活性化することを期待しています。また、平成26年4月には13名の同窓生が熊本大学に入学しているようですので、9月か10月に予定されている支部総会では盛大に歓迎したいと思います。

本誌をご覧頂きご興味のある方は、まず、母校同窓会ホームページの「熊本支部便り」で雰囲気を感じていただき、さらに、ご参加いただける方は下記までご連絡いただくと幸いです。

お問い合わせ先:ユニ建築設計有限会社 村上尚彌

TEL:096-372-0004、FAX:096-372-0018、URL:<http://www.uni-a.net> 柳 文治(29回生)

■福岡支部■ 福岡支部が東京支部と並んで、車の両輪として同窓会本部を支えていく！

福岡支部長 田中利美(20回生)



田中利美・福岡支部長

暑さ厳しき折ですが、皆様方にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私が福岡県全体の支部長に選任されてから2期4年が経過しました。

この間の支部活動を振り返ってみますと、「福岡支部が東京支部と並んで車の両輪として同窓会本部を支えていく」ということは、同窓会本部と一緒に、本部理事や正副支部長等が参加した東京との合同のテレビ会議等からして一定貢献できたのではないかと考えています。福岡支部としては、この方向性をますます強めていく必要があるだろうと考えています。ただ、本部が身近にあることや大学生が医学部生中心であることもあって、残念ながら福岡支部としての独自の活動が弱い面がありますが、本部の肝いりで今回初めて大学生の新入生歓迎会を開催することができました。今後福岡支部の独自の活動としてこれをどう発展させていくのか、そして過去実施したことはあるものの参加者が少なかったことから挫折している就職セミナーを、東京と同じ形では無理でしょうが考えていくべきだとは考えています。

福岡県内においては、サロンド附設イン福岡、同北九州、同久留米、大牟田OB会、筑後OB会、甘木朝倉OB会等の高校同窓生の集まりがありますが、これらの会合には、支部としての一体性や懇親のために、幹事長とともにできるだけ参加させていただきました。同時にこのように見ると筑豊地区にOB会等がありません。是非ともOB会を作ってくださいようお願いします。

福岡支部長を2期4年間、大過なく何とか努めることができたのは皆様方のご協力の賜物だと感謝しています。本当にありがとうございました。さて、これで改選です。7月の総会で新しい役員としては新支部長には松雪恵津男(22回生)が、そして副支部長にはOB会代表等といった感じで中野博(16回生・有明)、林公彦(21回生・甘木朝倉)、岸哲司(22回生・新支部長推薦)、坂井良治(22回生・筑後)、猪飼秀隆(29回生・久留米)及び永田八栄(34回生・北九州)の各位が選任される予定です(敬称略)。皆様には今後とも新執行部を支えていただき福岡支部を盛りたてていただくよう宜しくお願いします。

最後に、久留米大学附設高等学校そして同窓会並びに皆様方の益々のご発展を祈念して、福岡支部長としてのご挨拶とさせていただきます。

★会 告★



2013年7月7日 講演会の様子 講師：富田公彦氏（24回生）『外資系って何』

みなさん、定期総会、支部総会に、奮って参加しましょう！！

北海道、東京、関西、中国四国、山口、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分の各支部で、支部総会が、活発に開催されています。本誌の『支部だより』のコーナーでご紹介しています。

■附設高等学校同窓会 定期総会・福岡支部総会のご案内

○開催日時：2014年7月21日（月・海の日）

- 福岡支部総会 15:00～15:25
- 定期総会 15:25～15:55
- 講演会 16:00～16:50
- 懇親会 17:00～19:00

○開催場所：西鉄グランドホテル（福岡市中央区大名2-6-60 TEL092-771-7171）

○参加費：6,000円（ただし、学生1,000円）

○講演者：根井寿規氏（25回生、政策研究大学院大学教授 前経済産業省）
「我が国のエネルギー事情について」

○担当幹事：25回生/幹事長：山口佳秀

■附設高等学校同窓会 東京支部総会のご案内

○開催日時：2014年11月8日（土）

- 東京支部総会 16:00～16:30
- 懇親会 16:30～18:00

○開催場所：東京プリンスホテル（東京都港区芝公園3-3-1 TEL03-3432-1111）

○参加費：10,000円（ただし、学生1,000円）

○担当幹事：31回生/幹事長：北島誠也



2013年7月7日 定期総会/懇親会のフィナーレの様子

★新校舎竣工記念講演会報告①★

昨年、2013年春、附設の3代目の校舎となる新校舎が完成しました。それを記念して、後援会、同窓会の初めての共催事業として、『新校舎竣工記念講演会』が企画され、我が国の第一線で活躍されている同窓生に講師をお願いして、母校、福岡、東京での同時開催が実現しました。

■母校講演会■

久留米大学附設中学校・高等学校 新校舎竣工記念 母校講演会

日時 平成25年11月2日(金) 午前10時00分～12時00分

場所 母校・体育館

講師 川嶋文信氏(19回生)

三井物産株式会社 代表取締役副社長執行役員

演題 「グローバル化 時代を語る」



2013年11月2日(土)に、『久留米大学附設中学校・高等学校新校舎竣工記念講演会』が開催されました。講師として、高校19回生で三井物産株式会社代表取締役副社長執行役員の川嶋文信氏をお招きしました。

川嶋氏が高校1年のときに、附設は御井校舎から現在の野中町の旧校舎(取り壊し済)に移転してきたそうです。川嶋氏は、一橋大学経済学部に進まれ、卒業後は三井物産に入社されました。オクスフォード大学修業生、ニューヨーク本店勤務、ザンビアキットウェー事務所勤務、天然ガスサハリン開発チーム主席、豪州三井物産株式会社副社長を経て、2012年より現職に就かれています。

★新校舎竣工記念講演会報告②★

今回は、「グローバリゼーション 時代を語る」というタイトルでお話しいただきました。はじめに、川嶋氏の高校、大学、オクスフォード大学時代を紹介されました。その後、三井物産の147年に亘る歴史と創業者である益田孝の思いを熱く語られました。また、日本と世界を取り巻く環境・諸課題に触れられ、グローバリゼーションについて、自社を例に挙げて話されました。さらに、エネルギーを通しての世界との関わりもお話しされ、最後は、附設生への期待をこめて、これからあるべき人としての資質を語られて講演を結ばれました。

講演終了後も、生徒から「将来期待できるエネルギー源にどんなものがあるか」、「技術が進歩すれば、ソーラーエネルギーで十分な供給が可能となるか」、「海外でのエピソードが聞きたい」など、時間内には収まらないほどの多くの手が挙がり、とても活発な質疑応答の時間となりました。

今回の講演会は、生徒に意識の変化をもたらしてくれたものと確信します。また、後援会としても、広い視野に立った川嶋氏のお考えをお聴きでき、とても有意義な講演会でした。



【生徒の感想】

- 「エネルギー」 中 3-A 鈴嶋涼真
三井物産副社長、という時点でスケール（扱っている資本・活動規模）の圧倒的大きさを感じていましたが、実際聞いてみるとこれはもう言葉が出ないほどの壮さだった。海外業務をあたり前のように語り、プロジェクトの1つとして億単位は確実に超えている仕事を行っている。「スペシャリスト」の本物を見た気がした。素直に憧れる。
- 「強く生きた」 中 3-C 中園僚介
この講演会で印象に残っていることは、三井物産創業者である益田孝が欧州に行き、そこで日本がまだ発達していない状況に危機感を持ち、貿易をすることで日本を発達した国にしようと考えたことである。このとき益田孝は、日本人には、大きな志を持って生きてほしいと願う言葉を残している。自分の考えを持ち、夢に実現に向かって強く生きた姿に憧れた。
- 「再開国」 高 1-C 國崎研吾
今回の講演でのテーマの一つは「再開国」だったと思う。グローバル化し続けている世界では日本人も日本の誇るものをさらに世界に発信していかなければならない。ところで、「学ぶ」ことは「真似る」ことであるらしい。益田孝は、幕末の「開国」後の日本を明治維新と共に志高く生きた人物である。一方で現在の私達は「再開国」をしていかなければならない。しかしここで思うのは「私達は「再開国」後の日本を生きていけるだけの高い志を持っているだろうか」ということである。私達は益田孝から「学ば」なければならぬことが多くあるはずである。
- 「グローバルな人材」 高 1-D 藤浦剛己
エネルギー問題は私たちにとって永遠の課題だと思うが、一商社の三井物産が様々な方向からエネルギー問題に取り組んでいる姿に感動した。それと同時に今はもうグローバルな人材が必要とされている時代になっていて、簡単ではないが自分もそういう人になりたいと思った。
- 「個性・日本人性」 高 2-A 岩崎雅高
グローバル人材の話が最も興味深かった。世界に通用する人材の育成は急務だ。おそらく僕らの世代に求められるのは画一化されずにどう個性や日本人性を発揮するかだと講演を聞きながら考えた。有意義な講演だった。
- 「国際社会に必要な心の在り方」 高 2-D 月岡航一
商社がいかに多方面で事業を展開しているかを知り驚いた。資源、エネルギー面で全世界と交流することは興味深い。将来の目標を持ち、国際社会に必要な心の在り方を身につけておく必要性を認識する良い機会になった。

【以上は、「附設後援会便り」2013年12月4日からの抜粋】

★新校舎竣工記念講演会報告③★

■福岡講演会■

久留米大学附設中学校・高等学校 新校舎竣工記念 福岡講演会

日時 平成25年11月1日(金)午後6時30分～7時30分

場所 西鉄ソラリアホテル

講師 高橋精一郎氏(22回生)

(株)三井住友銀行 取締役兼専務執行役員(現 代表取締役兼副頭取執行役員)

演題 「金融市場から見たアベノミクス」

福岡講演会は、昭和54年に(株)住友銀行に入行されて以来、主に国際金融マーケットで活躍され、現在は(株)三井住友銀行の市場営業部門を統括されている高橋精一郎氏が講演された。

演題も「金融市場から見たアベノミクス」と正に時宜を得たものであった。

講演は、まず、「デフレ経済に至るまで」を80年代以降の経済状況を振り返りながら、日本のバブルの発生とその崩壊について説明がされた。

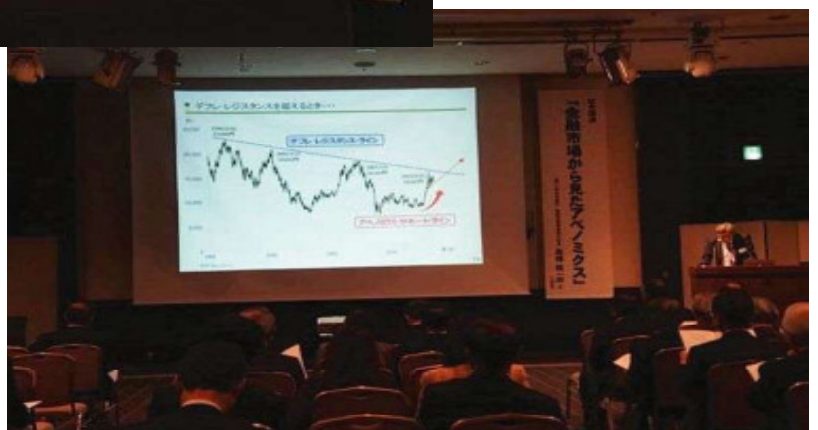
続いて、「デフレの何が問題か」という切り口から日本の名目ベースでの経済成長の低迷が海外との比較で指摘された(1990年を100とした場合 名目GDP 米国212 日本95)。

さらに「デフレを克服するアベノミクス」ということで、アベノミクスの効果や成功シナリオの紹介がなされた。

最後にデフレ・レジスタンス・ラインの紹介があり、株価の見通しについても力強いコメントで締めくくって終了された。

当日の出席者は在学生の父兄を含め約80名にのぼったが、講演終了後は、熱心な質問が出された。まだ、聞き足りない人は、懇親会の場でいろいろと質問(相談?)されていたようだ。

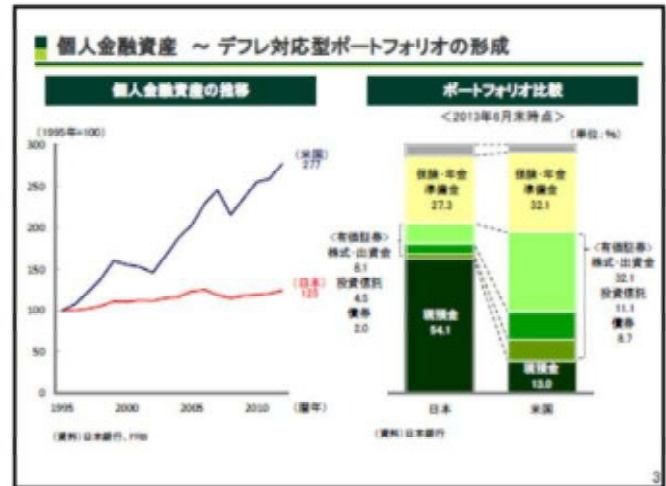
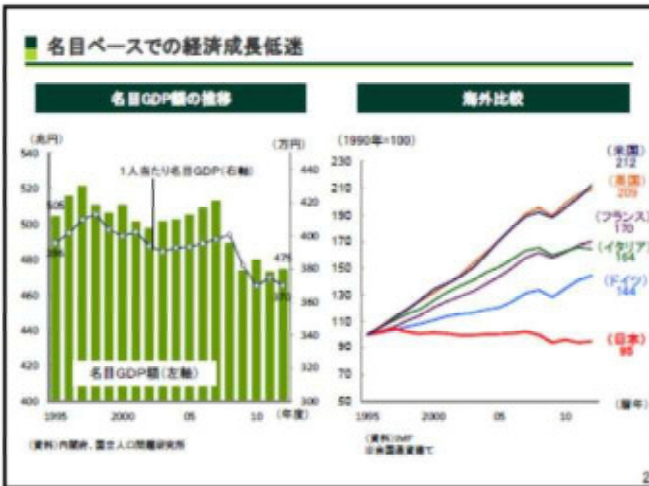
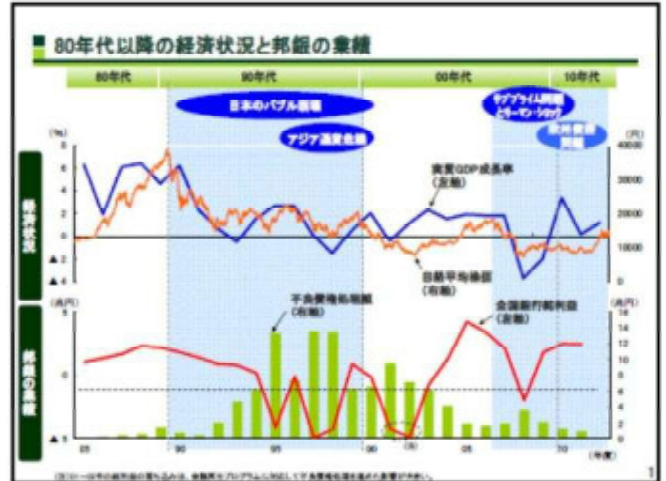
文責 22回生 松雪



本日のトピックス

はじめに

- デフレ経済に至るまで
- デフレの何が問題か
- デフレを克服するアベノミクス
- おわりに



アベノミクスの成功シナリオ

大膽な金融政策	積極的な財政政策	成長戦略
<ul style="list-style-type: none"> 「物価安定の目標」の設定 「量的・質的金融緩和」に基づいた金融政策 	<ul style="list-style-type: none"> 公的需要による景気下支え 財政健全化目標 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本再興戦略」の実行 TTPをはじめとした経済連携協定の締結
<ul style="list-style-type: none"> インフレ期待の醸成 安定的な資産価格の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 経済成長、歳入改革を背景とした税収増 社会保障改革に伴う歳出増圧力の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 産業競争力強化 新たな成長産業 新興国の成長の取り込み
デフレ脱却	財政再建	持続的な経済成長



★新校舎竣工記念講演会報告⑤★

■東京講演会■

久留米大学附設中学校・高等学校 新校舎竣工記念 東京講演会

日時 平成25年11月9日(土) 午後3時00分～4時00分

場所 品川プリンスホテル

講師 河村浩明氏(23回生)

株式会社シマンテック 代表取締役社長

演題 「進化するネット社会に自信と安心を」

東京講演会は、日製産業(現日立ハイテク)という日立グループの商社で17年間営業職を担当後、外資系IT企業3社を経て、現在は情報セキュリティー、データ保護のソリューションを提供するシマンテック社の日本法人の代表を務めておられる河村浩明氏に講演していただいた。

河村氏は、それぞれの企業でパフォーマンスの良くない会社を変革する仕事をされてきましたが、今回は、情報セキュリティーの現状がどうなっているか、それに対してシマンテックが、どういう姿勢で取り組み、どういったソリューションを提供しているか、について紹介いただいた。その上で、シマンテックが全社を挙げて取り組んでいるSymantec4.0という企業変革の取り組みを紹介し、それを推進していく上で心がけていること、スキルについて紹介していただいた。





『人はなかなか変わらないが、変えられる』



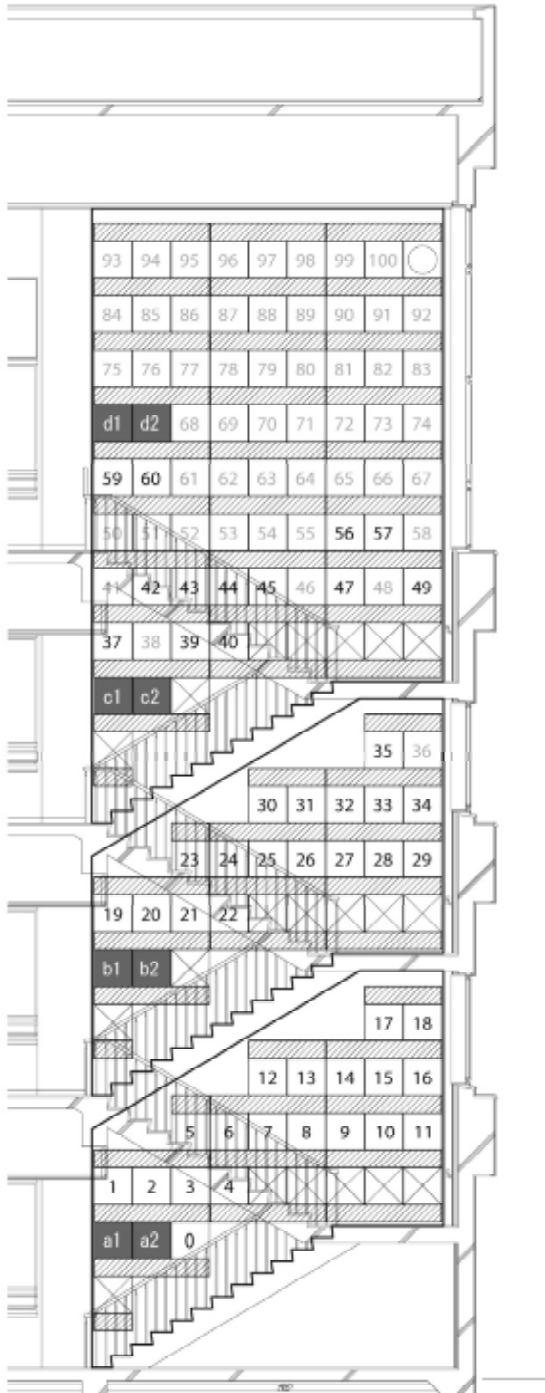
『母校からの学び 使命感・質実剛健・反骨精神』

★思考廻廊①★

■寄贈パネルの配置・各階案内板■

卒業生の皆様が自分たちのパネルはどのあたりにあるのか、確認していただければ幸いです。

「学校の沿革」については、それぞれの年代に対応する主な出来事を、吉川校長先生にわかりやすくまとめたものです。



- 59 各学年パネル配置 (黒文字は取付済)
- a1 卒業年表示
- a2 附設の沿革、作品主旨
- X 予備 (手摺部)
- 次の100年へのメッセージ

1953 - 1970

草創の附設

国家社会に貢献しうる
誠実にして発展ある人物の育成を目指して

初代校長 板垣政孝先生 (1953.2~1959.6)
1959年 久留米大学附設高等学校創立
校舎：久留米大学藤井キャンパス
1959年 第1回卒業式 (第1期生 99名)
第二代校長 榊崎次之助先生 (~1961.6)
第三代校長 大内真之助先生 (~1965.3)
校長代行 藤田武文先生 (1965.3~1968.6)
第四代校長 原 巴冬先生 (1968.6~1970.3)
1968年 現在地、野中キャンパスへの移転
新校舎竣工
1969年 野中での最初の卒業式 (18期生 298名)

<a1>

草創の附設 <a2>

1971 - 1988

成長の附設

国家社会に貢献しようとする
活発な気風をもった誠実・努力の人物の育成へ

第四代校長 原 巴冬先生 (1968.6~1970.3)
1969年 久留米大学附設中学校創設
(中学1期生2名、高校23期生)
中等教育の基としての附設の整備
1972年 附設中学校 第1回卒業式 (卒業生 45名)
第五代校長 生茂昌彦先生 (~1996.3)

<b1>

成長の附設 <b2>

1989 - 2019

躍動の附設

1989年 昭和天皇崩御 昭和64年→平成元年
附設高等学校北号館
初年度定員入学者 21名
2006年 久留米大学60周年
2010年 久留米大学附設高等学校66周年
2009年~2012年 青年奉還としての附設中学校の
改善新校舎
2012年 新校舎落成
2012年 中学入学式開始
第六代校長 藤方道彦先生 (~1998.3)
第七代校長 鹿毛勲真先生 (~1998.3)
第八代校長 樋口忠伸先生 (~2007.3)
第九代校長 古田智樹先生 (~2008.3)
平成24年10月就任：吉川 俊一 第十代校長

<c1>

躍動の附設 <c2>

2020 - 2052

思考廻廊 - 60+ 超の朝顔

専門をくぐり、深い水溜の先にあられる円卓的な
導、そのデザインは完成したばかりの連続性にも受け継
がれ、附設高等学校がこの礎へ登脚してきた当初からの
道程を誇り第一の精神になります。本作品は、年輪をイ
メージしたストライプ状の線編を扉の扉一面に配装し、
卒業生から贈られる記念パネルを階段取り付けしていく
ための仕掛けです。
附設のシンボルともいえる朝顔が、ただ外観を保存
するばかりでなく、学校の歴史を貫く展示スペース、
あるいは皆さんが得意にむけさまざまな思いを返らす場、
すなわち「思考廻廊」として再生し、より深く愛用され
ることを願っています。

常富久哉

<d1>

作品主旨 <d2>

★思考廻廊②★

■思考廻廊、今後の進め方■

卒業10年目に後輩にメッセージを送ろう!!!

同窓会副会長 思考廻廊推進委員長 小田恵介 (19回生)

■同窓会活動の一大事業、経緯とお礼

同窓会活動の一大事業として、新校舎竣工に合わせて、1回生からその後の回生すべてのメッセージパネルを製作して展開し、各回生すべての思いを具体的な形として残し、附設の未来につなげていこう、という『思考廻廊』構想に取り組んできました。

おかげさまで、回生代表世話人の方々を中心として、皆様方のご協力により、一昨年末までに、60回生のうち49にのぼる回生からメッセージパネルの原稿が寄せられ、一昨年10月の新校舎竣工に合わせて、階段塔の大壁面に大型タイルのパネルの取付が無事完了しました。それぞれの回生の個性に満ち溢れた、大壁面に広がるパネル群はまさに圧巻です。詳細については、同窓会のホームページを是非ご覧ください。



各回生、地域を越えてこの構想に取り組んでいただくことで、これまでになく、それぞれの回生の間で、熱い議論が交わされ、その結果、皆様の同窓生としての絆がより強くなったことは、同窓会としてこれに勝る喜びはありません。心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

その後、2次募集をかけたところ、38、58回生のパネルが追加されることになり、昨年5月には現地に設置されます。1次募集と合わせて51回生分に上ります。残るところあと9回生分になりました。これらにつきましても、同窓会として引き続き支援していきます。未だ設置されていない回生の皆様、是非設置してください。

■卒業10年目に後輩にメッセージを送ろう

61回生以降の進め方について、吉川校長先生、後援会の役員の方々々と打合せした結果、以下の方針で進めることになりました。

◆卒業10年目の節目に、母校を振り返って、後輩のためにメッセージパネルを作成する。

卒業後社会の荒波にもまれ、社会人として自立したころに母校を振り返って、後輩へのメッセージを作成する。

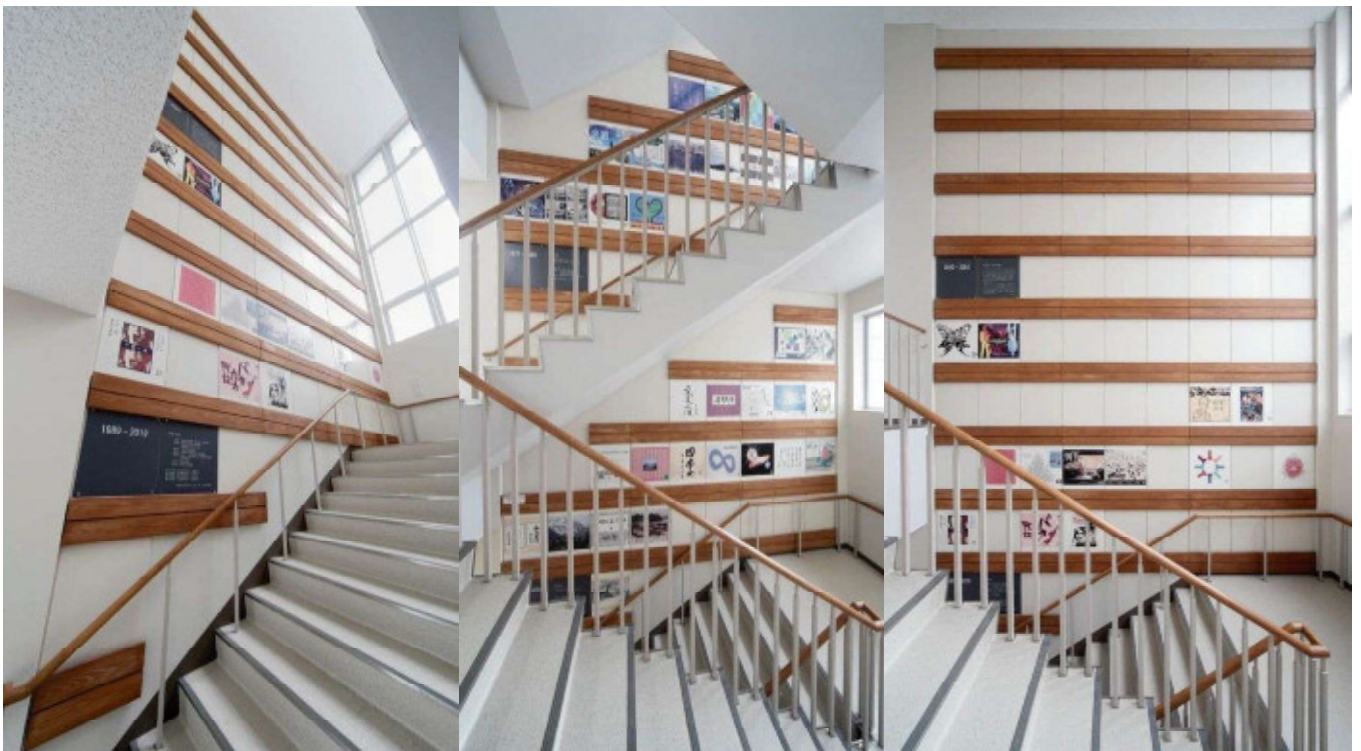
◆パネルの作成と取付は、おおよそ卒業10年目に行い、3学年分をまとめて、3年毎に取付ける。

◆パネル製作費(現時点では、12万円、10年後はさらに増額が予想される)は、各回生が負担する。

◆パネル取付費(現時点では、30万円、10年後はさらに増額が予想される)は、同窓会が負担する。

100回生、あるいは200回生までつながる、この壮大な構想は、皆様ひとりひとりの協力がなければ実現できません。是非この構想を後輩たちのために今後も継続して行こうではありませんか。

同窓生の皆様には、改めてご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。



最上段の右から2コマ目が100回生のスペース!!!

★高良随想①★

■附設創設時の記憶■



1953年3月、1回生卒業時の1代目の木造校舎



■『附設高草創期の教育』 「自立心」こそ学問の探求にとってすばらしく人生を豊かにする

3回生 田中 正志

わが家の応接室には、初代校長、板垣政参先生の「和而不同」と大石亀次郎先生の百歳の時にかかれた「誠」の色紙を中央に飾って常日頃、半世紀前の高校時代を思い起こし、現在の心の拠り所としている。

高三の組主任で第五代校長世良忠彦先生には卒業後にもご指導をいただき、思い出の尽きぬ恩師で今日でも懐かしんでいます。

当時の附設の特色は久留米大学からの出講で先生方は大学受験教育の経験はなく、各教授の専門の学問探究的講義で、当時は認識していなかったが大学教授陣から直接教授されたことはすばらしい体験だったと思う。

生物の江口二郎教授は大学の施設で顕微鏡を一人一台を使用して、「葉の細胞」を観察。温厚な化学の鈴木教授、すばらしい発音の英語の広瀬教授、当時、必須だったドイツ語の磯辺教授から基礎ドイツ語を徹底的に学び、英語と異なる言語感覚に喜びを与えられた。

高校での圧巻は九州大学名誉教授で一流の学者、長沼賢海先生の日本史で、歴史事項の深め方が大学並で高尚すぎて、毎日講演会のような授業で教科書は進まず江戸時代でやっとなりて明治以降は自学自習となる。一人の学生が学校側に抗議したところ、「あんな著名な学者の講義が受講できることを誇りに思いなさい」と言われたという伝聞がある。

美術は佐賀大学教授、美術評論家、後に石橋美術館館長になられた岸田勉先生で、絵をかくことはなく講義方式で「美の世界」を展開され、フランスのルーブル美術館を訪問した時は先生の講義を思い出しつつ鑑賞した。

概して、我々生徒の「自立心」を求められたが、この「自立心」こそ学問の探求にとって素晴らしいことで、自分の人生に大いにプラスするものであったと確信している。

初代校長、板垣政参先生からは全校集会で人格高潔にして温厚な人柄に接し、大石亀次郎先生の「漢文」を通しての人生哲学論は大人の世界を垣間見る思いにかきたてられた。

授業熱心で真面目な世良先生。英語の基礎力を徹底的に鍛えた井上武次先生には、英語教師になって二年間位時々自宅に押しかけて、「井上武次英語教授法」の伝授を受け、自分の授業に展開させてもらった恩人です。

当時、唯一の青年教師で明解なる指導で人気を博した井上敏郎先生、ユーモアあふれる授業の半田円四郎先生、ラグビー専門の体育の三原正蔵先生、先生方々の思い出は尽きないが、総じて一人ひとり、個性あふれる先生でした。

学校教育の成否の鍵は結局は教師にあることを自分の教師経験からも実感し、当時の副校長で英語担当の榎崎広之助先生曰く、「附設高の誇れる自慢は教師」という附設高で三年間、学問の世界及びそれらを通しての人間教育を受けたことを誇りに思う今日この頃です。

★高良随想②★

■『国を担う人になれ!』 板垣初代校長の建学の精神

3回生 野田 隆昭



私達が、入学した当時(昭和27年・1952年)の附設は、設備面では、ないない尽くしの学校でした。私たちの入学で、全学が揃いました。

校舎は、兵舎跡の馬小屋の改装したもので、東西に長く、真ん中が廊下。廊下を挟んで、北側には教室、南側には職員室・玄関と教室がありました。北側の教室は、一日中日が差さず、雨の日や曇った日は、薄暗い中での、授業でした。

勿論、講堂も、体育館などもなし。体育は、大学のグラウンドを借りて、運動具がないので、ボール一つで出来るラグビー。選択科目は、ピアノがないので、美術のみ。このような有様でした。

しかし、「国を担う人になれ」(板垣初代校長)の建学の精神の下、主要科目は充実していました。現代文は、世良先生。古文は、熊懐先生。漢文は、大石先生。解析Iは、井上(敏)先生。幾何と物理は、後に九大の教授になられた木戸先生。英語は、榑崎先生、半田先生、井上(武)先生さらに、久留米大学

から広瀬・上田の両教授。生物は、久留米大学から、江口教授。化学は、久留米大学の鈴木教授。ドイツ語(ちなみに、当時、必須)は、久留米大学の久野・磯部両教授、日本史は九大・長沼名誉教授、美術は佐賀大学教授(後の石橋美術館館長)、など、旧制の高等学校のような授業でした。

私達が過ごした3年間は、大学進学希望と共に、その後の進路を模索していた時期でもありました。戦争より、資産や資源の喪失だけでなく、あらゆる分野で有為な人材もまた、失っての新生日本の再出発だっただけに、いろいろな分野で、人材が求められる時期でもありました。



渡り廊下の奥に正門が見える

★高良随想③★

■司法試験の思い出■

■一番難しい試験は司法試験，二番目に難しい試験は公認会計士の試験

5回生 関西支部長 友添郁夫

昭和29年4月、久留米大学附設高等学校に入学。自宅から羽犬塚駅まで徒歩で約20分。羽犬塚駅から久留米駅まで約20分間汽車通学。汽車に乗って数学の勉強。久留米駅から久留米大学正門までバスで約20分間英語の勉強。授業開始前及び昼休みには、数学の勉強。授業終了。バスで久留米駅まで英語の勉強。久留米駅で汽車が来るまでの約20分間は数学の勉強。汽車に乗って羽犬塚駅までは数学の勉強。

羽犬塚駅から自宅までは、歩きながら英語の勉強。帰宅して約1時間は数学の勉強。

日曜日は数学の勉強。受験新報に一番難しい試験は司法試験，二番目に難しい試験は公認会計士の試験とあった。そこで、公認会計士になろうと思って、同級生三名で神戸大学経営学部を受験したところ、一人も合格しなかった。

上京して予備校に入学。司法試験を受験する決意をして中央大学法学部に入学。

そして、司法試験の受験生が室員である済美会研究室の室員になった。

昭和37年3月、中央大学卒業。昭和38年8月、司法試験を受験。筆記試験に合格。

憲法の口述試験。

問 「外国の軍隊が日本を攻撃してきたらどうしますか。」 答 「戦います。」

問 「憲法9条を読んで下さい。戦争を放棄していませんか。それでも戦いますか。」

答 「日本国及び日本国民の権利を守るため、例え、武器がなくても竹やりを持って戦います。」

試験官 「結構です。」 わずか約5分で終了。

民法の口述試験

問 「結婚していないのに子供が出来たらどうしますか。」 答 「認知します。」

問 「どうして認知をするのですか。」 答 「親になって嬉しいからです。」

問 「結婚していないのに子供ができたら嬉しいでしょうか。」 答 「親になったら子供を守るのは当然の義務です。」

試験官 「結構です。」

憲法も民法もわずか約5分で終了。司法試験合格。京都で1年4か月実務修習。京都の司法修習生25名のうち、23名が修習終了。1名は京大助教授に就任。

昭和41年4月結婚。そして、判事補に任官。

そして、松山地方裁判所に赴任。10年間判事補をすれば判事。

任官3年目の昭和43年9月の第1日曜日、妻と2人で雨の中を大阪空港で飛行機に搭乗。大雨が降る。今治市上空を松山空港に向けて飛行中、飛行機が急降下をくり返す。ようやく松山空港に飛行機が着陸。官舎に帰宅してほっとする。TVをつけた。次の便の飛行機が海中に墜落。滑走路を延長するために海を埋立てる工事が着工された。

漁民は、遠浅を埋め立てれば魚が獲れなくなる旨主張して埋立工事中止を求めて現場に小さな漁船を繰り出し、そして、松山地方裁判所に埋立工事禁止の仮処分を申請した。

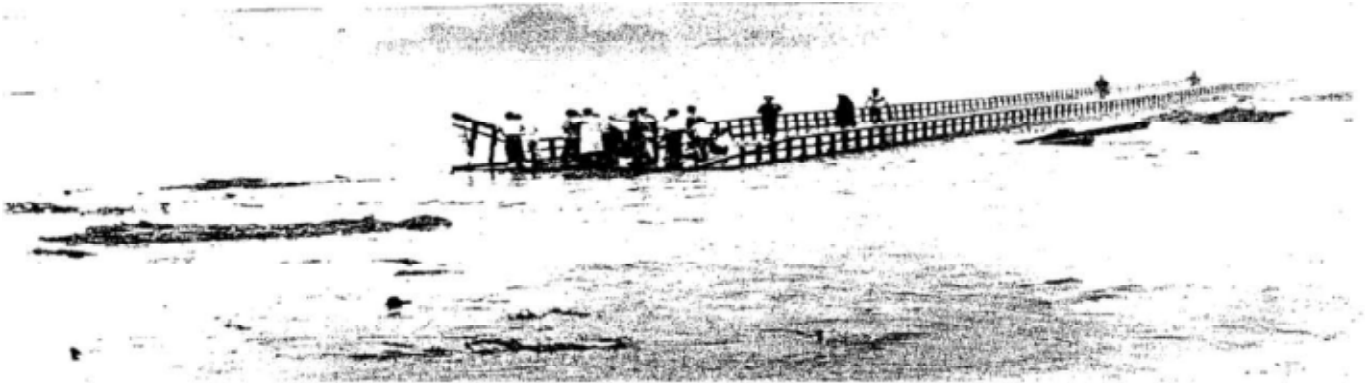
そこで、3名の裁判官は、合議をしたうえ、埋立て工事をするについて、漁業権者に対し、意見を求めないのは、法の適法な手続を定めた憲法31条に違反する旨判示して、埋立工事中止の仮処分を決定した。私は、学生時代に法の適正な手続を勉強した。

2014年4月

★高良随想④★

■1951年(昭和26年)筑後川氾濫の記憶

10回生 武藤正治



流壊する木橋・小森野橋(昭和26年6月)

懐かしい写真を目にし、往時のことが目に浮かびました。

長雨が続き水害警報が発令されたのか、4年生として通学していた篠山小学校でははやびきとなり家に帰りました。が、やることもなく近くの篠山城に筑後川の様子を見に行きました。

仰天しました、いつもの筑後川はユッタリと筑紫平野を流れる風景は一変し、増水し、濁流が川幅いっぱいとなっており、城壁のすぐ真下の堤防も溢れんばかりに流れていました。

そして、この写真にある「小森野橋」は木造でできており、橋桁も低く、濁流は橋桁すれすれとなっていました。やがて次第に流木などが橋脚に絡まり、それを除く作業を大人が橋桁に出て一人でやっているひがおられました。

当初は旨く剥がしていましたが、引っ掛かる量も多くなり、見学者も増えて来ました。

近所の人が作業していることもあり、何か声を掛けあっていましたが、中には同学年の子も一緒に楽しんで見学していました。

私も行こうかなと思いましたが、ギシギシときおりする音が不気味に感じたことやそこに行くには雨に濡れた急斜面となったところを降りなければならぬこともあって高見の見物と決め込みました。

そのうち濁流は橋の歩道近くまで増水し、軋みの音も段々強くなってきました。

何人かは不安を感じたのか橋から堤防に戻り、そこで眺めたりし始めました。

それからどれほど経ったか判然としませんが、徐々に橋が兩岸から離れようとしています。その様は現実なのか？不思議な気持ちで見守りました。そのうち、岸から離れた橋は、最初はゆっくりゆっくりと流れ始め、岸を離れてしまいました。やがて橋は真ん中近くで折れました。が写真の様に人々は為すすべもなく、そのまま乗った形で橋の上で塊のままでした。

そしてその橋のかけらは篠山城の周りを半周した形で迂回し、流れがまっすぐになると橋もいくつかに分解し、人々は橋げたや欄干の木にしがみついて流れていきました。

川下には国鉄の鉄橋があります、そこでそれに飛び移るひが何人かおられたのが遠目にも判りました。

そこまでの情景は今でも浮かびますが、その後自分がどういう行動をしたのか思い出せません。

後日、小学校の朝礼で学友が亡くなったことを告げられました。有明海まで流されたとのことでした。

その後雨は降り続き、宮の陣の堤防が決壊し久留米市内に水が流出し水浸しになりました。再び篠山城からその情景を目にすることとなります。

水が櫛原の方から田んぼを埋め尽くし、やがて水は城下にある医大病院を真っ直ぐに襲って来、次第に増水し病院の1階、そして2階、3階、4階まで(4階建てだった?)浸水して来ました。

牛が流れてきて、屋上に這い上がろうとしましたが、果たせず又流れたのを思い出します。

水は、医大の陸上グラウンドの観客スタンドまで到達し本当にお城の石垣までが水面となりました。

町内の川から筑後川の本流に流す水門がお城の近くにありましたが、自衛隊がホバークラフトのようなものに乗って来、その水門を開き、本流に流れを返し始めそれ以上の増水とはならず徐々に水位が下がってきたのは1日後だと思います。

(何故なら、我家は堤防と同じレベルに建てられており水害には見舞われませんでした。が、階段状に配置された下の家は浸水したまま一日は浸水の状態であったからです。)

附設の先輩諸氏が医大の病室清掃に精を出されたということは、今回初めてしりましたがそのご、自分も附設に入学し、同病院にお世話になることになり、改めて不思議な縁を感じながらこの写真を見えています。